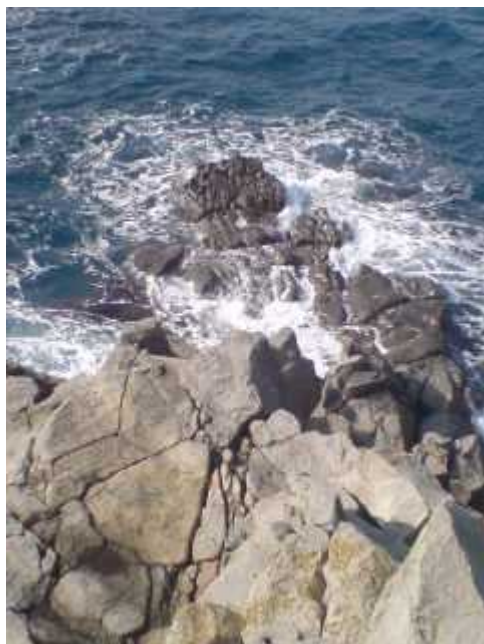


第4回

詰四会フェアリー作品展

(課題:4回)



開催：平成20年 3月16日

解答締切：平成20年 4月13日

解答発表：平成20年 4月14日予定

詰四会ホームページ

<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/tume4top.html>

(注) H20/3/18 7:37 修正

詰四会フェアリー作品展・解答要項

解答はメール及び郵便またはFAXで受付けます。

締切 平成20年 4月13日(日)

短評はなるべく書いて頂けると嬉しいです。

解答送先：

- ・メール：takuji@dokidoki.ne.jp
- ・郵送：792-0811 愛媛県新居浜市庄内町 4-7-69 須川卓二宛
- ・FAX：0897-32-3016

FM使用解答可(ただしその旨明記・短評をお願いします)

第4回の今回の課題は、「4回」ということでいろいろな4回が集まりました。しかも作品数がブルーゲーム&推理将棋の躍進で全24作ととんでもないことになってしまいました。解答者の皆さんは大変でしょうが超難解作は無いと思いますので、楽しんでいただけるのではないかと考えております。

なお7番~9番の荻江作は後手の持駒がありますのでお間違えに無いようにお願いします。

【ルール説明】

ばか詰：先後協力して最短手数で、受方の玉を詰める。

偶数手ばか詰：後手より始めて先後協力して最短手数で、受方の玉を詰める。

アンチキルケ：取った方の駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される。戻せないときはそのまま。

ばか自殺スタイルメイト：先後協力して最短手数で、攻方の王を王手は掛かっているが、合法手のない状態にする。

1. 中村雅哉 作

偶数手ばか詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					香	科	皇		二
						王			三
					香	皇			四
			角			香			五
					桂		馬		六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作意】

3五香 2三香成 同香 4三香成 迄 4手

橋本孝治「鮮やか！ 香の一目上がりから、左右の香成は気持ち良すぎます。

今回の『課題ベストマッチ賞』。」

高坂研「まずは小手調べ。でも、頭がすぐにルールに順応してくれず、結構悩んだ。」

隅の老人B「駒を打ったり、動かしたり。偶数詰は難しい。」

2. 中村雅哉 作

偶数手ばか詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						龍			二
						科			三
			と	王		科			四
				馬					五
							龍		六
					ス				七
			桂				桂		八
									九

持駒 なし

【作意】

4五桂 3六桂 同桂 5六桂 迄 4手

橋本孝治「前の問題で狙いが分かってしまったため、こちらはすぐに解けました。

敵の龍筋を開ける桂と味方の飛筋を止める桂は見事な間諜っぷり。」

高坂研「龍筋を通す手は第一感。」

隅の老人B「4手で総ての桂が動く、次は銀だな。」

3. 中村雅哉 作

偶数手ばか詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						銀	香	王	三
						銀	香	王	四
							香		五
							香	銀	六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作意】

3六銀 1五銀 同銀 2三銀生 迄 4手

橋本孝治「桑畑の地図記号みたいな初形。駒がぶつかった初形の割には簡素にできてますね。紛れを減らせば駒も減らせそうですが、これも作風でしょうか。」

高坂研「初手銀を取るのは流石に無理か。」

隅の老人B「『狙いを見破られては、仕方なし』、でしょう。」

4 . 中村雅哉 作

偶数手ばか詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
						金			四
								角	五
						香	王	香	六
				角					七
				金					八
									九

持駒 なし

【作意】

2七金 4七金 同金 3五金 迄 4手

橋本孝治「シリーズ最後が一番簡素というのが面白い。最後まで破調で『同』のない作があるかと思ったのですが、そんな捻くれたことはしませんか。」

高坂研「これが一番紛れが少なかった。」

【1番～4番 総評】

香箱「twinならぬquadruplet、4種4枚が1回ずつ動く。」

小峰耕希「受先を活かしたシリーズ物。構成を統一したのも良い感じ。

僕の好み順で並べると、桂香金銀かな。」

北村太路「1番悩みました。2, 3, 4解いてからやっと解けました。うまい人は何を作られてもうまいですね。」

高坂研「なるほど、それぞれ香四～金四という趣向な訳ですね。これは確かに偶数手詰でないと実現できないですねえ。」

隅の老人B「4題揃えて、作者は満足。解答者、角、飛の2手詰は？歩なら18手。流石に、これはムリでしょうね。」

飯山修「連作だから判りましたがそうでなければ1は難しかったです。」

5. 北村太路 作

ばか自殺行儀メイト 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				皇	王				一
				飛					二
		皇			角	科			三
			香	科					四
						科			五
				桂	王	香			六
						皇			七
									八
									九

持駒 なし

香箱「まさかと思って角不成を続けたら成立していた。お見事。」

中村雅哉「方針は見えやすいので易しい。角生の軌跡が美しい秀作。」

橋本孝治「なるほど、開き王手を入れて3回でなく4回にするんですね。」

初形は私なら、73角と64香を省いて盤の端に寄せます。

その方が初手の紛れも増えますし。」

小峰耕希「考えてみれば『4回』ならこれに決まっているのに、暫く見抜けず悩みこけてました。」

北村太路「4回角不成です。n回目にx = n、y = nにしようとしたためか配置が美しくない。6四が香なのは飛び道具だけにしようと思っただけで意味はないです。」

隅の老人B「あれ、動かす駒がない。『情けないなあ』と王がぼやく。」

6. 橋 圭吾 作

アンチキルケばか詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
	皇				皇				二
	桂								三
	歩			皇					四
	角	王							五
									六
		ス							七
					歩				八
	桂		角						九

持駒 なし

香箱「玉を5 1にぶっ飛ばして4段跳ねの桂成りまで。爽快です。」

中村雅哉「初めてアンチキルケが解けて嬉しい。8手目の局面で1手詰が見えず苦しみました(笑)。」

橋本孝治「6手目すぐに84玉/51玉とせず、74玉と一旦溜めるのが見所。このおかげで最終3手の切れ味が、より鋭く感じられます。」

小峰耕希「『4回』の定番メニュー。」

隅の老人B「なかなかアンチキルケの妙手が出ない、イライラしたね。」

7. 荻江香木 作

ばか詰(後手持駒なし) 45手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					皇				一
					皇				二
					皇	銀	銀	銀	三
		皇			皇		歩	歩	四
								王	五
					龍	飛		銀	六
					王		ス	ス	七
						桂			八
									九

持駒 なし

香箱「手が続くように進めればいい。龍と飛の動きがエンジンのシリンダのよう。」

中村雅哉「とても易しい趣向詰め。香移動合 4 回ですね。」

橋本孝治「ピンしている香がはがしの対象になっている機構は初めて見ました。

単純ながら、2つの駒がピンされた機構も独創的で、「チェイン」を髣髴とさせる作品になっています。」

小峰耕希「上品な趣向作。」

北村太路「なかなか楽しいプロットでした。」

隅の老人 B「趣向に気が付けば、あっけない幕切れが待っていた。」

8. 荻江香木 作

ばか詰（後手持駒なし）51 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
科									一
皇	皇	歩	金	金		銀	銀		二
		王	歩	歩	桂	桂	歩	桂	三
龍	ス	ス							四
		と							五
									六
									七
						皇	歩	歩	八
王					金		銀		九

持駒 歩3

香箱「蟄居の 9 1 桂に 4 段跳ねのご足労を願い、三顧の礼で金を取っていただく。」

中村雅哉「91 桂が何で居るのか？と考えれば『桂跳ね 4 回』の構想は見えてくる。」

橋本孝治「初手 64 との紛れに惑わされました。93 龍から入ると『課題』のおかげで後はスイスイと。この作品展でも桂 4 段跳の作はいくつかありましたが、隅から中央に跳ねるこの軌道が一番綺麗だと思います。」

隅の老人 B「最初は桂か香を取っての収束を考えた。これでは、歩が足りないし、手数も増える。金を取らせるとは！今回の作品展で私が解けた中では、一番のお気に入り。」

9. 荻江香木 作

ばか詰（後手持駒：歩 4）139 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
									一	
									二	
				歩	進		金	銀	金	三
				銀	科	香	歩		歩	四
					皇					五
					桂			桂		六
				金	歩			歩	王	七
				香		皇		歩		八
						王	桂		進	九

持駒 角2

香箱「ばか千日手のような手順で四歩稼いで、枠の外の第2ステージへ。8筋の趣向が楽しい。」

中村雅哉「一番最後まで解けずに残った作品。歩を取れる事がわかってからも、45歩、同桂の筋と思い込んでかなり苦しんだ。46角打のような攻方は盲点だった。」

橋本孝治「途中で反転する角打ち角合いと、持駒増幅ですか。課題に合わせず、拡大したバージョンも見てみたい気がします。しかし作者が作者なだけに、最初の出題図に『不詰』と結論を出すまで、結構悩みました。」

隅の老人B「88香を働かせるには？ここから思考が始まった。」

24. 北村太路 作

ばか詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1				
									一			
									二			
									三			
									四			
				桂	科	歩	歩		五			
				皇	皇			歩	六			
				飛	桂			入	科	七		
				馬	角			王	銀	皇	八	
				銀	銀			歩		銀	皇	九
								飛				九

持駒 なし

香箱「易しいけれど成程と思わせる。久留島喜内ですな。」

中村雅哉「これは易しい！狙いも明確で、形はごついが客寄せ作ですね。」

橋本孝治「最初は大掛かりな配置に怯みましたが、狙いが分かりやすかったので助かりました。表現はちょっと違いますが、パラ'07年10月号の平松準一氏作に刺激されて創作したものでしょうか？」

小峰耕希「包帯でぐるぐる巻きに。」

北村太路「たくぼんさんが募集のときに香の4回連続合を御所望されていまして、普通詰では創作力がなく創れないので、ばか詰で創ってみました！！・・・えっ、希望はこんなのじゃないって？？その他のご希望にあった、七種合4回とかは全然作れませんでした。すいません。壁駒に何かそれぞれ仕事をさせるために9七が馬になってしまいました。」

隅の老人B「題して『四面楚歌』、籠城は辛いね。」

【ブルーゲーム】 実戦初形より出題図に至る手順を求める

10. 武 紀之 作 9手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	なし
		飛								一
	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	二
							歩			三
										四
										五
										六
	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
▽	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	八
		角						飛		九

条件：玉不動

香箱「くるくる回る。」

中村雅哉「角回転（88角が4回連続移動）を巧みに表現している。」

橋本孝治「角2枚の追いかけっこ。たったこれだけの条件で出来るんですね。」

小峰耕希「初めて推理将棋を知った時に、こんな手順が出来ないと突つき回

した覚えがあるのですが、すぐ飽きて完成には至らなかった経緯があります。こ

の素材は推理将棋よりPGの方が向いているのかな？」

高坂研「先手角のRundlauf。ミニマムでの表現がいい。」

11. 武 紀之 作 10手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	▲
		飛								一
	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩		二
									歩	三
										四
										五
			歩	玉						六
	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
▽	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	八
								飛		九

条件：不成あり

香箱「くるくる回る。」

中村雅哉「今度は22角の回転（4連続移動）を巧みに表現。」

橋本孝治「こちらは後手ですが、これも簡単な条件できれいに回転してますね。」

小峰耕希「これなら素人でも一目で解ける。」

北村太路「角の回転2題。作者もご存知と思いますが、角の回転というどうしても橋本哲氏の傑作を思い出してしまうので、条件付だとちょっと評価しづらいですね。」

高坂研「こちらは後手角のRundlauf。殆ど原理図。」

12. 武 紀之 作 11手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	飛	銀	金	玉	金	銀	桂	香	▲銀歩
	飛					王			一
歩	歩	歩	歩	歩	歩	馬	歩	歩	二
									三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

条件：後手不成あり

香箱「くるくる回る。」

中村雅哉「32を中心として角が回転。巧みな表現力に感心。」

橋本孝治「最終形 33 角でなく 33 馬である理由は何でしょう。意外な余詰でもあるのでしょうか？」

小峰耕希「角を飛び回らせ、華麗な馬捨て(?)でフィニッシュ。」

高坂研「今度は不成での表現。巧いものです。」

13. 武 紀之 作 15手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	桂	銀	金		金	銀		皇	▲桂歩
	飛						馬	王	一
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	龍	歩	二
									三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	七
	角								八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

条件：最終手 2 三龍

香箱「これも回ってますな。5 2 玉のテンポに味がある。」

中村雅哉「今度は龍の回転。一拍置く 52 玉が巧い。」

橋本孝治「『最終手 23 龍』の条件がちょっと無粋な感じ。これより良い設定が思いつくわけではありませんが。」

高坂研「これは龍の Rundlauf + 玉の tempo move。(ところで、この条件は意味がないのでは?)」

14. 武 紀之 作 12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	桂	銀	飛	王	金	銀	桂	皇	▲歩二
金							馬		一
歩	歩	歩	歩	歩	歩			歩	二
									三
									四
									五
		歩					歩		六
歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

条件：なし

香箱「4 1 にいる金は 6 1 から来た金。」

中村雅哉「41 の金は実は 61 に居た金だった、というのが面白い。」

橋本孝治「後手の金が 4 回ですか。余分な条件なしで成立したのが収穫ですね。」

小峰耕希「6 1 金のソッポ移動が狙いか。」

北村太路「4 回がわからず。後手金着手が 4 回? 9 二金がちょっと惜しい配置ですね。他の場所だと余詰になりそうだし仕方ないのかもしれない。」

高坂研「41 金がすり替わっていたとは! 解図に一番時間がかかった。」

15. 武紀之作 13手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	桂		▲	王	▲	銀	桂	▲	▲
	飛			銀			飛		▲
▲	歩	▲	▲				▲	▲	▲
				▲					
		▲							
▲	▲		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	▲						飛		
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

条件：銀着手4回以上

香箱「31にいる銀は71から来た銀。」

中村雅哉「15番と一対。31銀は実は71に居た駒だった。」

橋本孝治「実は影武者と入れ替わっている31銀。あっさり実現しているように見えるのも作図技術？」

高坂研「今度は31銀が実は打った駒だった。」

16. 武紀之作 12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	桂	▲	▲	王	▲	▲	▲	▲	▲
	飛						▲		▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲		▲	▲	▲
▲	▲		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	▲						飛		
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

条件：桂着手4回以上、不成あり

香箱「26での駒取りが浮かんで22桂からの桂跳ねに想到した瞬間、快哉を叫びました。」

中村雅哉「桂の手4回？。わざと一拍置く22桂が巧い。」

橋本孝治「ちょっとこの辺りになると、条件が強力になるので抵抗感が...。」

高坂研「22角が不動ではあり得ないのはほぼ自明だが、22桂以下の手順は何ともユーモラス。」

飯山修「4手目の角生は成でもよく、これが限定生が必要という事なら間違いですがそういう手順は判りませんでした。武さん比較的解きやすい問題ありがとうございました。」

【ブルーフゲーム総評】

高坂研「武氏提唱の『条件付ブルーフゲーム』、堪能しました。特に、初形位置から動いていないような顔をしている駒を探すというテーマは面白いですね。(難しいけど)推理将棋と同様の発展性を感じました。」

隅の老人B「ブル-フなるものを初めて考えた。私にも解ける、面白いぞ。武さん、なにをするものぞ。ここまでは良かったが、パラの が解けません。

なんぞは、見ただけでギブアップです。」

推理将棋

17. 神無七郎 作

「昨日将棋センターで変な将棋を見たよ。」

「どんな将棋？」

「隣の将棋だったんだけど、10手目の飛打で後手が勝ったんだ。」

「へえー、とどめは飛か。でも、どうしてそんなに早く終わったの？」

「初手に歩を突いた以外、先手は同じ駒ばかり4回も動かしていたからね。」

当然の結果だよ。」

さて、どんな将棋だったのでしょうか？

香箱「初手26歩の推理将棋は珍しいですよ。玉と角の粘っこい絡み。」

中村雅哉「流石の秀作。簡単な条件なのに、なかなか考えさせられた。」

北村太路「七郎さん作ということで考えてみる気に。あまり推理将棋に詳しくないのですが、条件は簡潔な方だし、不成、成が両方あるし、2手目3四歩まで最終手の紐になって顔が立ってるし、詰上がりも結構面白いし、好作なのではないでしょうか？」

高坂研「作者名から36歩で55角28角などという凡庸なルートは採らない

だろうと思ったが、やはりね。」

隅の老人B「推理将棋は苦手、解く気がまったく起こらない。でも、七郎さんのファンです。せめて、この作だけは解きたいな。」

18. まさ 作

【3筋の手が4回】

「たった8手で詰ましたって？どんな将棋だったの？」

「3筋の手が4回だけあったよ。それと、初手とは別の筋に角が成ったな。」

さて、どんな将棋だったのでしょうか？

香箱「時間がかかりました。3筋5手ならすぐ分かったんだが。」

橋本孝治「最初『初手とは別の筋』の解釈に引っ掛かりを覚えました。普通に解釈すれば、「先手の第一手」なのでしょうけど、後手の角が成ったなら、後手の初手、つまり2手目かも...などと深読みしてしまって。まあ、普通に解釈すれば良いわけですが。」

19. まさ 作

【不成と駒取りが4回】

「隣の将棋は、たった9手で詰んじゃったね。」

「不成が4回もあったな。」

「駒取りも4回だよ。」

「8手目に他の何を指しても9手では詰まなかったのに。」

さて、どんな将棋だったのでしょうか？

香箱「22、とりあえず角不成。」

橋本孝治「問題文の最後の条件設定が面白い。推理将棋に作図問題が組み込まれているような感覚です。」

隅の老人B「推理将棋を解いていて、ふと思う。これは国語の勉強、言葉の裏を考えよう。」

20. まさ・タラパパ 合作

【取った金をすぐ打つ手が4回】

「隣の将棋はたった14手で詰んじゃったね。」

「金を取って直後にすぐ打つ手が4回あったな。」

「4筋の手も4回あったね。」

「一段目の手も4回だったな。」

さて、どんな将棋だったのでしょうか？

香箱「フェアリーでこんなこと言うのも今更ですが、人工的な手順ですねえ。ほめ言葉のつもりですよ。」

橋本孝治「回数を数えるのは苦手なので、この作の解図を最後に回しました。『取った金を打つ手が4回』が主眼で、後は調整のための条件なので、あまり避ける必要もなかったかも。」

21. まさ 作

【角打ちが4回】

「14手で詰ましたって？どんな将棋だったの？」

「角を取って直後にすぐ打つ手が4回出てきたよ。」

それと、2筋へ駒を打った最終手がこの将棋唯一の

王手だったね。」

さて、どんな将棋だったのでしょうか？

香箱「最後3手が新鮮。」

橋本孝治「余詰？ それとも誤読？『角を取って』の解釈を『馬を取るの、角を取ったとみなさない』として解答しましたが、それでもいくつか非限定があるみたいです。」

22. けいたん 作

- ・ 9手で詰め
- ・ 4回王手があった
- ・ 駒を成る手はなかった

さて、どんな将棋だったのでしょうか？

中村雅哉「7手詰の形の応用だが、条件がシンプルで美しい。」

橋本孝治「4回の王手がすべて先手のものと仮定すれば、2手目からfmで検討できますね。短い手順の解は捨てれば良いんだし。」

隅の老人B「最後の1手も数えて良いの？」

飯山修「手数は満たすが条件を満たさない解答ばかりでこの2つしかわかりませんでした。推理将棋は難しい。」

23. 武 紀之 作

「詰四会で見たい対局がおかしかった」

「どんな将棋だったの？」

「14手で先手が詰まされてたよん」

「それで？」

「両王手があった。それと、後手の角が55に居るのを見たよん」

「へえ、他に覚えていることは？」

「1つの桂の連続4段跳も見た。それと、その桂以外にも1つの駒の4連続着手があったよん」

「華々しい対局だね。後は？」

「不成が2回で成が1回だったよん」

「ところで対局者は誰だったの？」

「天草さんとベさん」

さて、どんな将棋だったのでしょうか？

香箱「桂と玉の軌跡の交差が巧い。6 6 角 5 5 角の折衝も PG らしくて好み。」

中村雅哉「桂の4段跳ねに両王手まで付けるとは贅沢な作意だよん。」

橋本孝治「『不成2回、成1回』の条件がいろいろな余詰を消してますね。

でも、奇抜な手順を成立させるためとはいえ、この条件の多さには閉口。

全解が掛かっていなかったら、そもそも解図に手を付けなかったと思います。

『天草さんとべさん』の作意は、天草“四”郎、べ“よん”じゅん、でしょうか。」

北村太路「最後に対局者の名前が出てくる理由が推理できません（笑）気になるなあ。」

総評

香箱「作家の皆さんに敬意を表します。」

中村雅哉「全問解答できると、達成感がありますね。全問正解だと嬉しいのですが。」

橋本孝治「今は花粉の種類が切り替わる時期。私はスギ花粉とヒノキ花粉の両方に反応するので、症状が変化しても鬱陶しさは変わりません。4月上旬のピークを過ぎれば後は楽になるのですが…。今回は出題数が多い代わりに、難問がなくて助かりました。」

小峰耕希「僕にとっては、掴み所のない推理将棋よりは、最終図がわかっているPGの方が若干とつき易いようです。でもやっぱり協力詰の方が面白く感じてしまいますが。」

北村太路「解けなかった作など、解答発表が楽しみです。」

高坂研「今回はここまでです。推理将棋の原稿書きが無ければもう少し解けたのですが…。」

隅の老人B「解けただけの解答、天才たくぼんさんに遠く及ばず、残念。若い頃は、人の作った謎は、必ず解けると自惚れていた。70歳過ぎの現在は、そんな気負いは消えました。少し考えて、すぐにギブアップ。解答を眺めて、成る程ね。」

これも良きかな、楽しい毎日。」

飯山修「締め切り日になったのでできた分だけ解答します。」